

大会に寄せられた メッセージ

2017年8月30～31日

全学連第78回定期全国大会

◆星野文昭（高崎経済大学出身）徳島刑務所在監、獄中41年

1971年11・14沖縄返還協定批准阻止闘争戦士

今年の全学連大会は、資本主義の命運も安倍の命運も尽きようとし、労働者人民の団結・ゼネストが彼らを打倒し、労働者人民の手に、人間労働・人間活動のすべてを奪い返し解き放っていくことが可能な世界史的過程で開かれます。

1%が巨大な富、過剰資本を抱え込んで恐慌に行き詰まり、それで利潤を貪るために、労働者人民が自らを再生産できず生きられないほど搾取し、その搾取と略奪の場をめぐる争闘戦=戦争を強いる資本主義の命脈の尽きた末期にあって、労働者人民の団結・ゼネストが彼らを打倒し、人間労働・人間活動の全てを奪い返し解き放っていく世界史的チャンス私たちは手にしています。

その労働者人民の命運のなかに学生の命運があるし、学生はその命運を団結の力・ゼネストで開いていく牽引車です。

新自由主義の破産した現実、1%が労働者人民を分断し、搾り取れるだけ搾り取る現実、大学にあって法外な学費・奨学金・自治や自由のはく奪等の形で学生に矛盾を集中し、学生が現実的主体的に向き合い立ち向かい変革し、人間的未来をひらく未来の力を奪おうとしています。しかしその力を獲得することは、学生の根底的欲求であり、自らが人間としてとして存在し、人間となるものです。すべてを奪う現実が1パーセントのためのものであり、真にすべてを生み出している99%が団結し立ち上がり闘うことによって、1%を打倒し、人間労働・人間活動の全てを奪い返すことのなかに未来があるし、それを実全する99%もっているし、その闘いを牽引する力をもつものが学生です。

大学を含めた生きられない現実を生む新自由主義の現実と労働者人民全体の未来をかけ闘い、その最大の焦点の改憲・戦争と闘い京大闘争への大爆発にかつ抜いて、闘う拠点をつくり、全国での決起をかちとり、その闘いをけん引する力を闘いにしていこう。

いま、最も富む8人の富と、世界の低位36億人の富が同じというほど富を集中する1%が巨大な富・過剰資本を抱え込んで、大恐慌の激化に行き詰まり、それでも利潤を貪るために労働者人民に低賃金・長時間労働・過労死、生きられないほどの搾取・貧困・犠牲を強い、さらに儲けの場をめぐる争闘戦、中東・朝

鮮戦争・核戦争・世界戦争を安倍・トランプを筆頭に推進し、資本主義が音を立てて崩れようとしています。

社会を動かす社会の真の主人公の労働者人民が、1%の全攻撃を、全労働者人民への一つの攻撃として、国際連帯をかかげひとつに団結し絶対反対で闘うことを通して、新たなインターナショナルのもとに闘う労組を軸に職場・地域・全国に渠底を拡大し、それを国際連帯・ゼネストに発展させ資本主義を打倒し全てを奪い返そう。

人間労働・人間的共同性を奪い返すことによって、人間性・共同性・創造性を全面的に解き放ち発展させ人間本来の社会を実現し発展させる道を開くことができます。

力をあわせ誰もが人間として生きられる、そうした人間労働を奪え返すことによって、力を合わせだれもが人間らしく生きられる人間的共同性・人間活動に満ち満ちた人間本来の社会を手にし発展させることができるのです。

全ての闘いをそのようなものとして面向き発展させ、労働組合・ソビエト・党の統一的発展をかちとり、それによってプロレタリア世界革命をかちとろう。そしてこの闘いを体現しているのが、私たちの階級的労働運動・国際連帯の闘いです。新自由主義による労働組合解体・分断によって民営化・外注化を進め、低賃金・長時間労働・生活破壊で生きられないほどの搾取を強いる戦争によって殺し合いを強いることに対して、それを全ての労働者人民への一つの攻撃として絶対反対で闘って闘って団結を発展させ、労組・ソビエト・党の発展、ゼネスト総決起の力で支配階級を打倒して労働者人民自らの手で人間社会を発展させていく、そのような闘いです。新自由主義攻撃の典型の国鉄分割民営化と絶対反対・団結で闘う動労千葉・水戸一総連合の闘いはそのような闘いとして、闘う労組をあらゆる職場に作ることを基礎に地域・全国にソビエトをつくり、ゼネスト・総決起の道を開き、民主労総をはじめ全世界の労働者人民の闘いと一つに結合し、新たなインターナショナルの下での世界革命の展望を開いています。

そのような闘いとして全学連の闘いがあり、沖縄・三里塚・福島・八尾北・西郡・婦民などの闘いがあり、そして星野・大坂の闘いがあります。

安倍・トランプは朝鮮戦争・核戦争によって数百万を虐殺しようとしています。日米間の労働者人民の団結・決起で阻止し、安倍・トランプを打倒しよう。阿部は森友・加計疑獄であらわになったように、国家の権力・カネ・財産を私物化し、独裁化し、改憲によって戦争・専制を推進することがあらわとなり、アベノミクスも結局財政金融の破たんを代償として労働者人民からの搾取を源泉とする株バブルによって、また特区・規制緩和・労働法制改悪によって森友・加計・大資本はじめ1%のみに富を集中することがあらわとなって、安倍への労働者人民の怒りは一線を越えています。安倍打倒、改憲戦争阻止の闘いで階級的労働運動・全学連運動の大飛躍を勝ち取ろう！その闘いと一つに無実の星野・大阪の解放をかちとろう。

戦争・沖縄基地と闘い労働者自己解放=人間解放を勝ち取る闘いに加えられている無実で無期43年投獄を許すな！ 直ちに開放をかちとる闘いとして無期の終身刑化・獄死攻撃を許さない即時解放の更生保護委員会闘争をたたかい、それをもバネに100万人署名・全証拠開示、再審・無罪解放の闘いに勝利しよう。

命運の尽きた資本主義・安倍をを労働者人民の団結・ゼネストで打倒し、労働者人民の手に人間労働人間活動の全てを奪い返し解き放つ道を開こう。大胆に訴え、全学生を全学連に獲得しよう！

◆国鉄千葉動力車労働組合 執行委員長 田中 康宏

第78回定期全国大会の開催を心よりお祝い申し上げます。また日ごろのご支援・ご協力に厚く御礼申し上げます。

安倍政権は、都議選の大惨敗と支持率の急落のなかでガタガタになりながらも「2020年新憲法施行」に向け、来年の任期切れまでに改憲の道筋をつけんと必死にあがいています。これと一体で、労働法制の解体をさらに推し進めようとしています。また、このために連合を「産業報告会」化する動きも強まっています。

JRは、安倍政権と一体となって国家にとって「付加価値」を生まないものはすべて切り捨てる「選択と集中」「国家的大リストラ」の先頭に立ち、2020

年を焦点に、乗務員を含めすべての鉄道業務を外注化、分社化・転籍へと持っていこうとしています。これまでとは全く違う次元の外注化・分社化攻撃です。

国鉄分割・民営化から30年、分割・民営化がもたらしたものは、結局、北海道に象徴される膨大な路線廃止、そして尼崎事故だったことがハッキリしました。しかし、国鉄闘争が闘われ続けたことによって、労働法制の解体や民営化攻撃、改憲・戦争国家化の攻撃を阻み続け、そのことが今、安倍の戦後最大の労働法制改悪攻撃・改憲攻撃と真正面からぶつかり合うものとなっています。

大学に対しても戦争体制への動員が始まっています。京都大学の反戦バリストへの退学処分はその最たるものです。そして「就職予備校化」の中で、競争に駆り立てられ、奨学金返済を背負わされ、就職は非正規職で生きていくこともできない—こんな現実をなんとしても変えなくてはなりません。

地方では、ローカル線切り捨てで、学校や病院が統廃合され、社会が社会として成り立たない状況に追い込まれています。千葉では、これに抗して地域の守る会が発足し、住民のみならず地域の自治体や労組などを巻き込む運動となり始めました。学園や地域の拠点、闘う労働組合の存在が、新自由主義に対する反乱の中心となっていく大きな可能性があることを示していると思います。

今年の11・5労働者集会は、戦争と民営化攻撃と真っ向から対決する集会となります。改憲阻止1万人行進にぜひとも大結集をお願いします。

戦争・改憲、非正規職化の安倍政権打倒！ ともに闘いましょう。貴大会の大成功を心より祈念いたします。

◆国鉄水戸動力車労働組合 執行委員長 石井 真一

全学連大会に結集したみなさんに、動労水戸から連帯のメッセージを送ります。

安倍政権は、2020年改憲に突き進んでいます。世界の資本主義は、新自由主義政策も破たんし、世界戦争・核戦争しかないところに行きついています。われわれ労働者階級は、ブルジョアジーの帝国主義戦争に対し、労働組合を組織し、団結し、ゼネストを対置し、革命を実現するときに来ています。

学生は、この戦争と革命の情勢を前にして何をすべきなのか。今の時代をどう見るのか、戦争とは何か、革命とは何かを真剣に考えるときだと思えます。大学を舞台に、すべての学生を対象にして討論し、学生・労働者階級がどういう道を選択するのかを決めるときに来ています。

侵略戦争に断固反対し、ブルジョアジーを打倒し、革命に勝利する全学連を強大に建設する時が来ています。沖縄の基地問題、福島第一原発の事故問題、東京オリンピック問題、大学の軍事研究問題など、山ほどある問題は、すべて資本主義が引き起こしているものとして弾劾し、学生が先頭に立ってそれと闘うのだという議論を深めなければなりません。

大げさに言えば、人類滅亡の危機が迫っているということです。ブルジョア支配を放置し、打倒しなければ世界戦争が勃発し、その世界戦争は核戦争になるということです。

動労水戸はこの情勢に、最悪の福島第一原発事故をなきものにする安倍政権による常磐線全線開通攻撃に対し、4月1日小高駅から浪江駅への延伸に反対し、ストライキ闘争に決起しました。この闘いは安倍政権を直撃し、今村復興大臣を辞任に追い込みました。3月31日には、福島県から避難している住民の住宅援助金が打ち切られています。そして、浪江闘争に決起し、福島の帰還強制・住宅援助金打ち切りに反対する署名運動を職場で展開したとして、都庁レストランでシングルマザーが解雇されました。福島第一原発事故をめぐる安倍政権との攻防は、激しく火を噴いています。

10月21日JR東日本は、福島第一原発の南側、竜田駅から富岡駅まで延伸すると発表しました。浪江町の町民の帰還率は5%です。富岡町はさらに低いはずで、2020年オリンピックまでに常磐線を全線開通させ、福島県民、JR労働者、自治体労働者、教育労働者などに被ばくを強制し、福島県民に帰還を強制するものです。絶対に許せません。こんな安倍政権は打倒意外にありえません。

動労水戸は、9月23日いわき市・平中央公園で富岡延伸反対集会を行い、デモ行進に決起します。全学連の皆さん、未来を切り開くために共に闘いましょう。

全学連大会の成功を祈念します。

◆国鉄東京動力車労働組合

キャンパスから貧困と軍事研究なくそう！改憲とめる大学ストをやろう！をかかげて闘う仲間の皆さん！ 戦後階級闘争のすべての闘いの先頭に立ち続けてきたのが、青年労働者と学生たちでした。朝鮮戦争、60年安保、70年安保／沖縄、三里塚、そして浅草橋戦闘、今朝鮮侵略戦争が切迫し、安倍政権の戦争と改憲の大攻撃が政権瓦解の崖っぷちで強まっています。改憲阻止の闘いは、間違いなく労働者と学生がゼネストを組織し、10万、100万のデモ行進が国会や首相官邸に押し掛け、安倍を監獄へ！を実行する闘いとなります。

私たち動労東京は、いつでも皆さんの闘いと共にあります。キャンパスでも総非正期職化攻撃が始まり、貧困と格差が蔓延しています。社会の縮図です。この新自由主義大学を作り出した根源＝国鉄分割民営化と全人生をかけて闘う私たちは、動労総連合の一翼として首都＝東京に深紅の動輪旗（組合旗）を打ち立てます。安倍-小池を串刺しに！共に闘おう！

◆沖縄の青年労働者から

日本IBMビジネスサービス労働組合 執行委員長 富田晋

昨年の公安による襲撃は顔から火が出そうなほどの怒りを感じていました。私達はあの襲撃を受けて、より国家権力との闘いに猛然と立ち上がる事を誓いました。しかし、あの襲撃こそ全学連の同志達の闘いの前進に恐怖する国家権力の姿でした。昨年の襲撃に対する各大学での徹底的な反撃によって本日の大会が勝ち取られていることを心からお祝い申し上げます。

沖縄はいま、朝鮮半島における戦争情勢の超切迫の中で激しい闘いの渦中にいます。安倍政権は危機的状況に追い詰められているからこそ、憲法9条改悪と一体で辺野古新基地建設と離島への自衛隊・米軍の配備を強行しています。更にそれを推し進める為に労働組合の絶滅に死活を賭けています。

私たちの職場でも「限定正社員制度」が導入され、「会社に評価されない人間は雇い止めする」という露骨な弾圧が開始されました。「限定正社員」とは労働者が獲得した権利の上に立つ「正社員」とは違い、経営者の裁量で給与・

労働条件・雇入れの決定が下せるものであり、”一生非正規”を強制するものです。この攻撃は労働組合・労働運動を壊滅すると共に経済徴兵による戦争動員を可能にするための歴史的な攻撃です。これが2018年に向けてどの職場も例外なく、「働き方改革」と称して一斉に行われています。しかし、このような攻撃は私たちの団結と闘いによって必ず打ち破る事が出来ます。私たちも職場において仲宗根書記長への解雇撤回闘争を軸に必死に抵抗しています。その闘いは全ての労働者の階級的な利害の立場に立つからこそ、職場内外から支持を受けて団結を拡大しています。

こうした資本からの激しい攻撃の中で職場の中で「出口が見えない」と絶望を組織される労働者がいます。私たちはそれに対して沖縄大学自治会と共に「ゼネストで社会を変える事に展望がある」と訴えて団結を守りぬき、その訴えが沖縄の隅々にまで響き渡り始めています。そして、まさに職場・学園・地域丸ごとの決起が作られるところまで来ています。

全学連の全ての同志の皆さん、もしくはこれから全学連の同志となろうとしている皆さん、私たちは命をかけて職場の団結を守り、戦争を阻止し、労働者を軸とした新たな社会を作る覚悟です。その為には沖縄だけではなく、全国の全ての職場・学園で同様の声を上げなければいけません。今まで歴史的に団結の旗を守り続けてきた皆さんこそ、その最先頭に立つ学生です。全学連の闘う指導部と共に社会を変える為に闘おうではありませんか!! 今こそ全国を貫くゼネストを実現しよう!! 国境を越えた団結で新たなインターナショナルを建設しよう!! 私たちは共に苦闘し、共に闘う同志である事を皆さん誓い、大会へのメッセージとさせていただきます。

◆全国水平同盟 委員長 久原正子

全学連第78回定期全国大会開催おめでとうございます 皆様の日頃のご支援ありがとうございます。

いよいよ戦争と革命の時代を迎えています。都議選で「中核派の北島」の登場は、「安倍を監獄へ」を求める労働者階級の決起を作り出し、自民党を惨敗

にたたき込みました。追い詰められた安倍はいよいよ改憲攻撃にのめり込んできています。共謀罪強行はそのためです。

しかし、星野、大坂同志の不屈のたたかいは、労働者階級に国家犯罪＝共謀罪を打ち破る展望を指し示しました。また、改憲と一体の労働法制改悪との決戦はすでに国鉄決戦を基軸に始まっています。労働者階級にとっては、ゼネストから革命勝利以外ありえない決戦です。国鉄闘争30年の勝利の地平を土台に、改憲攻撃をゼネストから革命へたぐり寄せていく決戦としてに猛然と決起していきましょう。

学生、青年を取りまく状況は本当に怒りに耐えられません。だからこそ、生きるために、全学連が求められていると思います。

革命の時代が始まり、人間的共同性を奪いかえすときがきました。「差別や、競争はなくなるらない」論は、革命に対する絶望の思想です。新自由主義の攻撃は激しい。しかしそれは団結にしか生きられない大量の労働者・学生を生み出し、決起が次の決起を生み出す時代の到来です。絶対反対の団結をキャンパスから作りだし、革命の拠点を作り立てよう。

全国水平同盟は、非正規撤廃を掲げ、労働組合建設を軸に、更地化攻撃－生活破壊とたたかう地域拠点建設に全力で取り組んでいます。住宅追いだしに対する絶対反対のたたかいは、労働組合を拠点にして、地域全体の階級的団結の土台となり、生きる拠点を生み出しつつあります。

7月16日全国水平同盟は第6回大会を開催して、更地化攻撃とたたかう地域闘争の地平の上に、狭山闘争に全責任をとると宣言しました。「新たな狭山闘争」への挑戦です。狭山事件は、階級的高揚に恐怖した国家権力による差別をつかった分断攻撃です。そのために無実の石川さんを犯人にでっちあげた権力犯罪です。階級に対する分断と団結破壊、治安弾圧攻撃そのものです。石川さんの不屈の闘い、狭山闘争が労働者階級の権力犯罪と、階級分断に対する怒りに火をつけ、ゼネスト－革命に向かわせる決定的号砲となっています。全国水平同盟は、全国に水平同盟の旗を立て、18年改憲決戦から革命の最先頭で闘います。

全学連のみなさん！共に18年改憲決戦から革命勝利へ全力で闘いましょう。

◆全国労働組合交流センター事務局長 飯田英貴

全学連第78回定期全国大会へのメッセージ 全学連第78回大会の開催おめでとうございます。全国労働組合交流センターは、全学連の皆さんと共に「改憲阻止・安倍を監獄へ」の闘いを共に闘い抜く決意です。「ミネルバの梟（ふくろう）は、日暮れて飛び立つ」ということわざがあります。「ミネルバの梟」とは知恵の象徴であり、「日暮れて」とは「人間の実践的行為が終わったあと」のことを指すとのこと。つまり、歴史を選択し、決定するような行為は、既成の理論よりむしろ起こっている事柄の方がもっと意味を持つのだということです。大学の中で「学問の自由」が存在しているかのような建前もかなぐり捨て、「使い捨ての労働力を作り出す工場」として、兵器開発をも積極的に担う軍事施設として変貌しようとする大学に対して、そのような状態を根本的に変革する闘いの具体的担い手として一人一人の学生が立ち上がることにこそ、大学は大学のもっているみずからの使命を今日的に達成することになるのだと思います。斎藤委員長を先頭に法政大学を中心に闘ってこられた全学連は、そのことを身をもって示してきました。目を覆いたくなるような戦争の現実、絶望をも組織しながら進む貧困の現実を前に、多くの労働者、学生、青年たちが決然と立ち上がり始めています。来るべき改憲阻止の大決戦は、労働者、学生、人民が、今はただ生きることのみ追われている無名の人間が、初めて人間らしい決断と自己の責任における行動によって、人間の社会を動かし、歴史を作り出す可能性をつかむことのできる時代を切り開くことにあります。法に歴史があるのではなく、労働者階級こそが歴史の主体であり、その闘いこそが歴史をつくるのだということを今一度甦らせることです。我々に問われていることは、労働者人民の怒りを国会の中だけに、体制内的に閉じ込めていくイデオロギーや運動を突破することです。8・6原爆ドーム前集会で、広島の子が、いまの労働者の過労死の現実、学生の貧困の現実、原爆の火で焼かれているのと同じだと叫びました。だからこれは人間を取り戻す闘いなんだと訴えていました。我々の改憲阻止決戦は、戦争の現実、新自由主義のもとで打ち砕かれ、未来を奪われようとしている労働者・学生の現実から出発し、その怒りと闘いの中から作り出されていくものだと考えます。その新たな闘いの一歩として10・

21国際反戦デー闘争から11・5全国労働者総決起集会―「改憲阻止！ 1万人大行進」に向かってよりいっそう団結し、共に闘いましょう。

◆都政を革新する会東京西部ユニオン副委員長 北島邦彦

「未来は若者のものだ」…とは、古今東西様々な人たちが語ってきた言葉です。しかし私は、今回の都議会議員選挙を全学連の若き仲間たちとともに闘うなかから、この言葉に心から確信をもつことができました。それとともに、この言葉の真の意味は、「若者がつかむべき未来は、あらゆる世代の人たちが待ち望む未来でもある」ということだと認識しました。都議選闘争における白眉は、「安倍を監獄へ」のスローガンを生み出したことでした。個人のアイデアとしてつくられたのではなく、都議選闘争全体の闘いが必然的に浮かびあがらせたスローガンです。これによって、安倍一小池に対する怒りが労働者人民の心中に沈殿することなく、一気に解放されました。この空気が都議選闘争に“清々しさ”をもたらしたのだと思いますし、学生同志のみなさんとその空気を胸いっぱい吸えたことに、重ねてお礼申し上げます。朝鮮侵略戦争の具体的な超切迫と改憲攻撃の繰り上がりは、私たちの闘いのみが反撃の要であることを明らかにしています。改憲阻止の闘いは同時に、ゼネスト・革命情勢を惹起します。躊躇することなく闘いを進めましょう！それこそ若者の特権です。私もみなさんとともに全力を挙げて闘います。

◆婦人民主クラブ全国協議会 代表・三浦正子

全学連大会の開催おめでとうございます。

まず、公安警察の妨害を打ち破り、実力で本大会を勝ちとっているみなさんの闘いに敬意を表します。

今日の大学は、真理を追究し、未来を開く「学問の府」のあり方を完全に投げ出していると思います。資本主義―新自由主義社会の中で命より目の前の金儲け、競争原理に学生を駆り立てるなど本当に許せません。ましてやそれに異を唱える学生を大学から追い出すなどもってのほかです。自殺行為としかいい

ようがない。学問も研究も国家権力に対決してこそあると考えます。

さらに学費高騰の中で奨学金が卒業後までも重くのしかかり、戦争反対や軍事研究反対の闘いに立ちあがることもままならないようにしている。人間社会にとっての著しいマイナスです。こうしたことと真正面から取り組んでいる全学連のみなさんの闘いは、全国の学生はもちろん広く私たち労働者民衆の中で支持と共感、希望を今広げています。

常に時代を切りひらく先頭に立つみなさんとともに、私たち婦人民主クラブ全国協議会もロシア革命から100年の今年、韓国はじめ世界の労働者民衆と連帯して戦争阻止、改憲阻止のたたかいを全力で闘っていきます。社会の根底からの変革へ！

大会の成功を心から祈念します。

◆3・11反原発福島行動実行委員会 椎名千恵子

3.11福島原発事故は、核の平和利用が全くのうそだったことが、あきらかになり資本主義体制の崩壊を、加速させました。安倍政権は国家の延命をかけて、福島抹殺でオリンピック開催で乗り切ろうとしています。復興キャンペーンの攻勢を、子どもたちを盾にしてすすめる悪辣さを許せません。その先兵に福島大学が立っています。福島県健康調査検討委員もつとめる清水修一福島大学名誉教授は、風評払拭に向けて、福島原発事故などについて、福島、東京、フランスの高校生を前に講話。同じ企画で、東京では、首相官邸で安倍昭恵首相夫人が入っています。「海外の高校生と発信する福島の食」がテーマです。福島大学が復興政策の拠点になってることをかたる氷山の一角です。闘いを対峙して、社会的に暴露して行きたいと思わずにはいられません。帰還困難区域の避難解除を常磐線三駅、夜の森駅（富岡）、大野駅（大熊町）双葉駅を通過駅にしないと述べているのは、高木経済産業副大臣です。これに対して被曝労働拒否、住民も被曝させるなど、常磐線開通阻止の集会が開かれます。9.23いわき集会です。福島から根底的な怒り旗をかかげて参加します。1人でも多くのみなさんの決起をお願いします。諦めるわけにはいかない、負けるわけにはい

きません。いのちも未来も破滅させる1%をおそうじする、革命を起こす闘いを全学連のみなさんと共に、成し遂げたい。胸に青春を抱いて、この時代を駆け抜ける覚悟です。3.11反原発福島行動実行委員 椎名 千恵子

◆都庁ふくしま署名解雇を許さない会事務局

東京西部ユニオン組合員 柿沼庸子

本日集会にこられた皆様へお疲れ様です私は中学生の子をもつ母親です。東京都庁議事堂レストラン(都議会をやるところの1F)の厨房で働いていた労働者です。今年の4月3日 朝 職場に行くと『今日から来ないで下さい』とクビになりました。理由として①東京都が福島からの避難者への支援を2017年3月31日をもって全て打ち切って 汚染地域に帰還を強制する事に反対する署名を職場で集めた。②被曝地域に常磐線を延伸させるという とんでもないことを国の政策としてすすめているという暴露ビラを職場仲間に渡した。ということです。現在労働組合として団体交渉 東京都労働委員会に申立てをして会社と小池都知事を相手に闘っています。皆さん今 この国で行われていること世界で起こっていること全ての民衆から労働も財政も搾取して一部の大金持ちが生き延びられるためにどうするか？という仕組みで社会が動いています。その為には国に都合の悪いこと、御上に逆らうものには蓋をして口を封じて死んでも構わないという卑劣な攻撃が日々当たり前のように行われています。皆さん私たちは何故生まれて 何故死んでいくのでしょうか？『生きるとは何か』を一人一人が問われている時だと思います。この2日間を皆さんの『生きる』力になるような議論が出来る場として 未来への展望を具体的につくっていける仲間といっぱい共謀してください。毎月 第二 第四木曜日 17時から東京都庁議事堂レストラン横で座り込みを開始しました。共に生きられる社会をつくるために是非声を上げる場としてこの運動に参加して拡散してください。そして みんなが人らしく幸せに生きられる社会とはどういうものなのかを闘う労働組合と全学連を発展させて一体となつてつくっていけたら良いなと思って連帯の挨拶とさせていただきます。

◆国際連帯共同行動研究所所長 弁護士 鈴木達夫

いよいよ戦後史の決着をつける 때가来ました。日本とアジアの労働者人民が「戦後革命」で果たしえなかった課題がいま眼前に到来しています。

「護憲でなく、革命を」には、この「戦後革命」の総括と、戦争の階級的性格の暴露（マルクス主義！）が不可欠だと考えます。「キャンパスに憲法はない」というのは、一面の真実でしょう。しかしながら、改憲阻止決戦は、紙に書かれた条文のあれこれではなく、まさに労働者人民・学生の血と汗で刻まれた戦後日本階級闘争の主体的蓄積こそが土台です。NHKが18歳19歳を対象に行った世論調査では、憲法9条について「改正する必要がある」が18%だったのに、「必要なし」が53%に達し、安保戦争法に最も強く反対したのも20代の青年（世論調査で7割が反対）だった【『前進』第2870号2面】。ここに、階級の記憶とその継承が現れているのでは。

戦争のリアルさを徹底的に共有し、それを「始まる前にとめる」ための力！を手にするべく、自治会建設と全国学生ゼネストに大進撃する全学連大会を期待します。

◆弁護士 西村正治

常に時代の先端を切り開くたたかいに敬意を表します。昨秋来の公安警察弾劾のたたかいは、公安一課を半年間ロックダウンさせました。今年的全学連大会に向け、彼らは被告訴者を先頭に公安一課の復活を狙っているようですが、悪辣なねらいを粉碎し、再起不能にたたき込みましょう。熱く、堅く連帯して闘っていきたいと思います。